

宮城県に 1000万円 みなさんの気持ち、現地に届きました

未曾有の大災害に立党の精神発揮し、お見舞い、救援募金、情報提供活動など、党をあげて全力！

日本共産党

21日の「計画停電」

第1・第5グループの計画停電は22日(火)までありません。第2グループは本日21日午後3時20分から午後7時00分間の約3時間実施される予定です。変更される可能性もあります。(詳しくは裏面に)

21日の新京成予定

始発～8:00 頃:休日ダイヤ(一部行先変更あり)、8:00 頃～9:00 頃:約10～20分間隔、9:00 頃～18:00 頃:約20分間隔で運転、18:00 頃～終電:休日ダイヤ(一部運休あり)。 ※詳しくは新京成線(047-389-1151)に。

武蔵野線はほぼ平常通りです。

常磐線運転率は快速50%、各駅40%です。

北総線はほぼ平常通りです。

20日までに救援募金90万7379円、うち55万円余宮城に届く

日本共産党中央委員会が19日、全国から寄せられた救援募金のうち、1000万円を宮城県に贈りました。このうち55万5408円は、日本共産党松

原発事故は人災？スポーツ紙が07年7月党申し入れ文を紹介

3月15日付け「日刊スポーツ」は、コラム「政界地獄耳」で、2007年7月の中越沖地震での東電柏崎刈羽原発事故を受けて、福島県内の原発の安全対策について、党福島県委員会が福島県知事に申し入れた文書の一部(左掲)を紹介しました。

福島原発は、チリ級津波が発生した際には機殻冷却海水の取水が出来なくなることが、すでに明らかになっている。これは原子炉が停止されても炉心に蓄積された核分裂生成物質による崩壊熱を除去する必要があり、この機殻冷却系が働かなければ、最悪の場合、冷却材喪失による苛酷事故に至る危険がある。そのため私たちは、その対策を講じるように求めてきたが、東電はこれを拒否してきた。柏崎刈羽原発での深刻な事態から真摯に教訓を引き出し、津波による引き潮時の冷却水取水問題に抜本的対策をとるよう東電に求めること。

引き続き安全確認、救援募金、情報提供活動に全力

日本共産党は、松戸市でも、みわ県議を本部長に震災対策本部を設置しました。震災発生直後から、5人の市議団とともに草の根で状況の把握と、高齢者宅などの訪問と安全確認を行いました。強い余震が続く中、小金地域のあるひとり暮らしの高齢者は「怖い気持ちを誰かに話したかったと喜んでいました。13日(日)には松戸駅東口でのべ92人が参加して救援募金活動を展開し、22万円余が寄せられました。ある若い女性「必ず助けてあげてくださいね」と涙ながらに訴え、募金を寄せました。

15日からは、「計画停電」の予定や鉄道各線の運行状況など、地域や駅頭で住民のみなさんにお知らせする活動を開始。胡録台のあるお宅では「停電を知らせる」昨日のニュースは本当に助かりました。夫も喜んでいました」と語っていました。

地震でのお困りごとがあれば、市の防災課366-7309に電話して下さい。24時間相談に応じています。私たち日本共産党もお手伝いしますので、気軽に声をかけてください。

日本共産党松戸市議団は17日、市長に震災対策の申し入れを行いました。(裏面)

福島からの避難者お見舞いと要望伺い…みわ由美災害対策本部長

松戸市は、3月15日(火)から、福島県からの避難者を市内施設へ受け入れることを開始し、20日夕時点で287人になりました。

みわ由美県議員(党松戸市災害対策本部長)は19日午前中、松戸市議会議員とともに避難所の一つである市内のお寺を訪れ、住職に「お見舞いとご要望を伺いに」と訪問の目的を告げ、市から派遣されている福祉科の職員の許可を得て、避難者のみなさんと面会し、お話を伺いました。

いわき市の屋内退避圏からの4人家族は、「店が津波で流され、家が屋内退避圏になったため、ガソリンを並んで入れて脱出してきた。残っている親戚も

呼びたい」と語っていました。

30キロ圏近くのハウス農業親子は、「地震で給水施設が壊れ、避難してきたが、地元の避難所にトマトなどを届けるために、ガソリンが入れられれば、戻りたい」と語っていました。生活については「満足しているが、ガソリンがないのが困る」と語りました。

